

オピニオン opinion

そこが聞きたい 時代を超えるいわさきちひろの魅力

松本

ちひろ美術館常任顧問

今年、子供の絵で知られる画家、いわさきちひろ(1918~74年)の生誕100年。死後44年が過ぎたが、あとけない子供たちの表情を求めて多くのファンが二つある個人美術館や記念の展示会、イベント①②を訪れている。時代を超えたちひろの魅力はどこにあるのか。絵のモデルでもある一人息子の松本猛さん(67)に聞いた。

【聞き手・森忠彦/写真・手塚耕一郎】

親愛を込めて、「ちひろ」と呼ばせていただきます。しかし、死後44年たっても薄れない人気の理由はどこにあると思いますか？

そうですね、アーティストの作品が時空を超えて人々の中に残っていくのは、まずはクオリティ(質)が高いということが条件ですが、それだけではないでしょう。例えば、ジョン・レノンの曲「イマジン」が世界中ですっと歌い継がれているのはなぜか。あの歌に込められたジョンの思想(人類は平等であるべきだとか、平和な社会であるべきだとか)に時代を超えた意味があり、それを多くの人が今の自分に重ねて受け止めているからです。

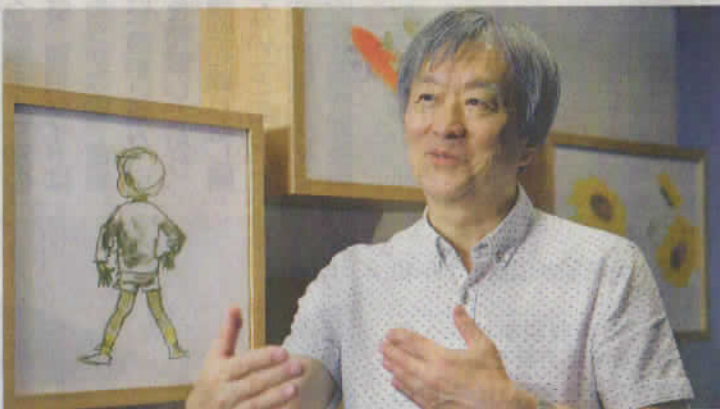
ちひろの本がいまだに売れ続けているのも同じで、彼女の思想(平和が何より大切で、子供は幸せでなければならぬ)とか、誰からも愛される存在であるべきだとか)が絵の背景にあって、そこに共感した方たちがちひろを今も生かし続けてくれているのだと思います。天才的なデッサン力に加えて一人の母親であることが子供や赤ちゃんを描く上で不可欠でした。この二つの要素が重なってあの作品群が生まれたのです。

ちひろの絵は時代性を帯びていないものが多いですね。子供を抽象化、象徴化して描いているので、古い感じがしない。だから時代を超えて理解してもらえると、ということも言えるでしょう。

世界では今もなお、内戦や紛争、飢

すべての子供 幸せに

餓が続き、何の罪もない多くの子供たちが犠牲になったり、心に傷を負ったりしています。国内でも陰湿ないじめや虐待、貧困による不幸な事件や出来事が続いていて、決して子供たちが幸せだとは言えない現実がある。そういうことに心を痛めている人たちにとっては、ちひろの絵を見ることで、どこかホッとすることができるともい



まつもと・たけし

1951年、いわさきちひろと松本善明氏(元衆院議員)の長男として東京で生まれる。母の死後、東京と安曇野にちひろ美術館を設立。安曇野ちひろ美術館館長を経て現職。美術・絵本評論家、作家。母の生涯をつづった「いわさきちひろ 子どもへの愛に生きて」を昨年出版。

晩年に描かれた「戦火のどもたち」(73年)は個性的な強い作品で、戦争モチーフです。平和への切実な思いが伝わってきますか？

あの作品は当時、泥沼化したトナム戦争がきっかけですが、自身の戦争経験が大きくなっています。旧満州(現中国東部のつらかった経験と東京に空襲体験ですね。戦後は一記者だったこともあり、街頭などを取材しているんです。戦ものがいかに悲惨で、子供という状況に追い込むかを、自覚していました。ですから「……」には、明らかに戦跡で見た子供たちの姿がオーブしています。

最初の結婚がうまくいかず、戦前社会の家族制度に達しました。それだけに戦後に本的人権と平和主義を盛り込んだ憲法は、ちひろにとって大いでした。その後の生き方の母の精神は重なっていますね。

母親としてはどんな存在ですか。子育ての方針も

子供が悲しんだり、傷ついたりするようになると、何より苦痛でした。ポク自身、たまたま怒鳴られたりした記憶はあんなに小さなころは一緒によく遊んだ。木登りしていると、エテ登ってくる。嵐の日以外の外出時は、本人も完全武装で密着して。庭に穴を掘って秘密基地とした時も手伝ってくれた。かく、「危ないからダメ」ということを言う人ではありませ

ひろの魅力

松本猛氏

ちひろ美術館常任顧問

ません。

「74年」—
表情を求めて多
②—を訪れ
ルでもある一人
写真・手塚耕一郎

晩年に描かれた「戦火のなかの子どもたち」(73年)は例外的に時代性の強い作品で、戦争が大きなモチーフです。平和への思いは強かったのですか？

あの作品は当時、泥沼化していたベトナム戦争がきっかけだったので、自身の戦争経験が大きく投影されています。旧満州(現中国東北部)でのつらかった経験と東京に戻ってから空襲体験ですね。戦後一時、新聞記者だったこともあり、街頭の孤児などを取材しているんです。戦争というものがいかに悲惨で、子供たちをどういう状況に追い込むかを、身をもって知っていました。ですから「戦火のなかの……」には、明らかに戦後の焼け跡で見た子供たちの姿がオーバーラップしています。

最初の結婚がうまくいかなかったのは、戦前社会の家族制度に遠因がありました。それだけに戦後にできた、基本的な人権と平和主義を盛り込んだ新しい憲法は、ちひろにとって大きな存在でした。その後の生き方の基本と憲法への精神は重なっていますね。

母親としてはどんな存在の方でしたか。子育ての方針とか。

子供が悲しんだり、傷つけられたりするようなことが何より苦痛だった人でした。ポク自身、たたかれたり、怒鳴られたりした記憶はありません。小さなころは一緒によく遊んでくれました。木登りしていると、下から追って登ってくる。嵐の日に外の様子を見に出た時は、本人も完全装備でついてきて。庭に穴を掘って秘密基地を作ろうとした時も手伝ってくれました。とにかく、「危ないからダメ」というようなことを言う人ではありませんでした。



「いわさきちひろと松本猛氏」の長男として(祝議員)の死後、東京の美術館を経て現美術館館長を経て現評論家、作家。母の「いわさきちひろ」を昨年出版。

1 いわさきちひろ

生まれは、教師だった母が勤務していた福井県。間もなく東京に移り、都内で育つ。20歳で最初の結婚をして旧満州へ。死別後に戻った東京の実家も空襲で焼失。戦後、絵を描き始め、再婚。雑誌の表紙や数々の絵本を発表し、人気画家となった。

2 生誕100年の記念展

二つのちひろ美術館のうち東京(練馬)では、遊ぶ子どもを映像で表現した「あそぶ」(10月28日まで)▽長野(安曇野)では、よく描いた帽子をモチーフにした「子どものへや」(9月25日まで)——が開かれている。東京駅のステーションギャラリーでも「いわさきちひろ、絵描きです。」(9月9日まで)が開催中(京都と福岡で巡回予定)。

子供と一緒に遊びを楽しめる母親、大人でした。子育ての基本は、子供と一緒に遊ぶで、その子の興味や関心をつぶさず、個性や才能を見つけて伸ばしてあげることではないでしょうか。高校生になったころかな。母が取り組んでいた絵本作りをそばで見ている、すごく面白かったことがあります。ページペーページが独立した絵のようであって、実はそうではない。まるで映画のように運動していて、あとでつながって物語が動いてゆく。空間芸術から時間芸術になってゆく本作りの醍醐味というのでしょうか。結局、母の死によって私も美術や絵本の世界にかかわることになりました。

育児の中での絵本が見直されています。絵本の魅力はどこにあると思いますか？

先日亡くなった(アニメーション映画監督の)高畑勲さんが言っていました。「いいアニメを作ろうと一生懸命やってきたけど、ひょっとしたら語りすぎてしまったかな」と。ポクはよくこういう言い方をします。「アニメを飛行機に例えるなら、絵本は徒歩だよ」と。アニメは動画のインパクトがあって実に面白いのですが、基本

は監督が作った時間の中で離陸し着陸するもので、途中で止まることはできません。その点、絵本は読者のペースで速度が変えられる。立ち止まることも、戻ることさえもできる。その人が好きに想像する時間を作れる。これが絵本の最大の特長です。

現在、小中学校で芸術教育の時間はほとんど削られています。これは子供たちの想像力や創造力を削っているということ。芸術とはこの想像力と創造力の双方で成り立つんです。今の子供たちは、芸術を楽しむ機会を奪われている気がします。

もう一つ、絵本には親子の接点を作るツールという役割もあります。布団の中で持ち込める珍しい商品です。大人と子供が一緒に気持ちを交換できる場所が絵本にはあるのです。それどころか時には、大人も気づかないような発見を子供がしたりする。

ポロポロになるほど愛読した絵本が何冊もある子供は幸せですよ。大きくなって読み返した時に子供のころの記憶がよみがえってくる。この豊かな記憶こそがその子にとっての大きな財産なんです。ぜひ、大人は子供と一緒に自分が好きな絵本を選んで、その理由を語ってあげてほしい。そのことで親子の絆はぐんと深まりますから。

聞きたい一言

お話を伺ったのは命日の8月8日。没後44年にして初めての「ちひろ忌」だった。「関わった方に亡くなる方も増え、ちひろがどんどん歴史になってゆく。忌日を設けることで、ちひろを考えるきっかけになれば」と猛さん。

この日、東京のちひろ美術館であった猛さんのトークには、約30人のファンが集まった。絵から抜け出してきたような女の子も一緒に参加した。今はまだよく分かっていないのかもしれないが、この場にいたことの記憶は、大きくなってきくと忘れたい財産になるだろう。